

いつも当社システムをご利用いただきありがとうございます。  
今月分の請求書を送付いたしますので、ご査収の程よろしくお願い申し上げます。

株式会社ユニコーン  
大阪市中央区大手通 1-1-2  
TEL.06-6943-4560 FAX.06-6920-5311

いつもありがとうございます。

暑い空気に覆われていた日本ですが、立秋をすぎて少し涼しい風が吹き始めたように感じます。みなさまはいかがお過ごしでしょうか。

生國魂神社で毎年行われている「大阪薪能」のチケットを譲っていただき、友人と観に行ってきました。大阪薪能は1957年に戦後復興の象徴として始まり、今年で第63回目の開催になるそうです。

開場は16:30、まだまだ暑い時間帯です。日が暮れるまでは暑いだろうと覚悟して行きました。境内にセッティングされた椅子の中から、舞台の正面で日陰になっている席を選びました。境内の中は涼しい風がふいて、思ったほど暑くなく助かりました。都会の暑さはアスファルトの暑さなのだ実感しました。

この日の演目は「翁」「羽衣」「蝸牛」「石橋」です。

「翁」は、「能にして能にあらず」といわれ、まさに別格の一曲。と説明にありました。神聖な儀式で演者は神となって天下泰平、国土安穩を祈祷する舞を舞うそうです。令和元年にふさわしい演目です。

次の「羽衣」は、昔話でお馴染みの羽衣伝説が元になっているそうです。天女の羽衣と冠のきらびやかなこと！暗闇のなか、照明と薪の灯りに照らされとても美しかったです。

「蝸牛」は狂言でした。童謡「でんでんむしむし かたつむり」の歌詞は、この「蝸牛」のなかで「でんでん（出よ出よ）むしむし でんでん むしむし」と、繰り返し唄われているのが語源なのかな？と思いました。

セリフも動きもコミカルでとても面白かったです。

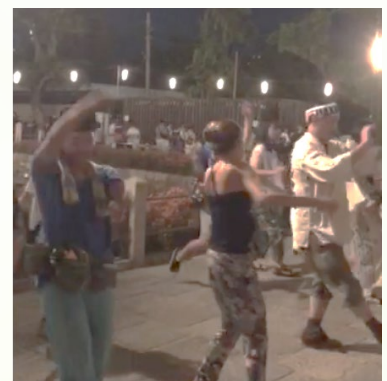
舞台の様子を見計らったように強弱をつけて風が吹きます。鼓の音が近くのマンションに反射して、やまびこのように遅れて聞こえます。日が暮れて夕焼け空が紺色に変化し、そして真っ暗な空に月が白く輝く。野外で見る能は、とても幽玄な雰囲気でした。

翌日は、近所の盆踊りに参加しました。いろんな世代・いろんな国の人々が、亀池を囲んで輪になって楽しく踊りました。亀池の檣には、河内音頭といえばこの人！河内家菊水丸さんです。わたしも見様見真似で列に加わって踊りました。途中で踊りが変わって、ステップが複雑になっていきます。わたしより外国の方たちのほうが、あっという間にコツをつかんで上手に踊っていました。他人の足下を必死で見て真似るのが精いっぱいですが、とっても楽しかったです。お盆に帰ってきたご先祖さんたちも、きっと一緒に楽しんでくれたことでしょう。

季節は秋にむかっているとはいえ、まだしばらくは暑い日が続くかと思います。お疲れが出ませんように。どうぞご自愛くださいませ。



開演前と後の生國魂神社



えんやこらせー どっこいせー



本堂には、大勢の見物客です

今月も最後まで読んで頂きまして、ありがとうございました。  
来月もよろしく願いいたします。